

謝 辞

終りに、この比較試験にあたって種々の御指導をうけた小平気象衛星研究部長、天野第4研究室長に心から感謝の意を表す。また、休暇を利用して野外試験並に風速資料の整理には協協大学の学生弦間稔技術補佐員に手伝って戴いた。各種微風測器の製作ならびに比較試験にあたって協力して戴いた光進電気工業株式会社、栗原二郎氏に謝意を表す。

文 献

Kaimal, J.C., and J. A. Businger., 1963: A con-

tinuous wave sonic anemometer-thermometer, J. Appl. Met 2, 156-164.

光田 寧, 1971: 超音波風速温度計とその大気境界層研究への応用, 天気, 18, No. 8, 377-385.

佐貫亦男, 1953: 地上気象器械, 共立出版, 13-49.

高橋延男, 1971: 微風速計の傾斜風特性と6ヵ月間の耐久試験, 測器技術資料, No. 4621, 1-11.

—, 1972: 風の垂直成分を測る発電式微風計, 気象集誌, 50, No. 5, 494-496.

—, 1974: 複合型微風向風速計の性能と実用試験結果, 測器技術資料, No. 4922, 1-13.

—, 1974: 微風測器(調査研究用)を利用して得た観測例, 測器技術資料, No. 4923, 1-12.

第18期第17回常任理事会議事録

日時 昭和51年6月28日 14.00~17.00

場所 東京管区気象台会議室

出席者 磯野, 小平, 浅井, 朝倉, 奥田, 神山, 河村
高橋, 野本, 各常任理事

報告

〔庶務〕 1. 6月8日東京大学海洋研究所長事務代理から海洋研究の将来像に関するシンポジウム開催についての通知がきた。(7月1日~2日, 於東京大学海洋研究所)

2. 小平理事から6月22日日本学術会議と学協会との懇談会の報告があった。

(1) 第70回総会の報告, (2) 基本法の制定, (3) 日本学術会議会員の選挙。

日本学術会議会員選挙の有権者登録は, 来年3月までに, 資格審査は従来通り。住所変更の方は忘れないで届出ること。2回(9期, 10期)郵送しても戻ったものは名簿から削除する。

3. 水資源に関するシンポジウム開催計画について

(1) 昭和52年10月に4日間東京で開催予定, 日本気象学会を含め6学会主催。

(2) 目的は, 水の使用量が増大し, 水資源が足りない現在, 水の有効利用に関する研究討論を行ない, 水問題に対する関心を喚起する。

(3) 主題 ア. 水需給の長期展望, イ. 水資源の有効利用, ウ. 水資源の利用と環境

〔会計〕 野本会計理事から5月分について会計報告, またページチャージについて本庁の中で支払わない会員がいる。

〔講演企画〕 夏季講演を9月3日「モーネックス」について開催計画。夏季大学は, 現在のところ80名を超えている。

〔地物研連〕 環境問題の小委員会ができた。

議題 1. 次期役員への申し送り事項について。

(1) 集誌, 問題点をメモにして申し送る。

(2) 会計

ア. ページチャージを支払わない件。規準の点をはっきりし, 払えない人について, 編集委員会で判断することを了承。イ. 外国文献等の収支。ウ. 天気広告の収入。エ. 理事および委嘱した編集委員には, 旅費支給の検討。

(3) 天気, 現在のシステムを続けて欲しいこと。

(4) 理事会の構成を知らせる。

(5) 理事長の互選の方法は新しい理事会で決める。

2. その他。

(1) 水の有効利用に関するシンポジウムについては, 共催とすることを了承。

(2) 第16回全日本科学機器展後援の件承認。

(3) 天気のアンケート受取人払は予備費から支出する。

(承認事項) 高野精秀ほか24名の入会を承認。